

令和5年度厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策政策研究事業)
分担研究報告書

第4期特定健診・特定保健指導以降に望まれる喫煙の把握と指導

研究分担者 尾瀬 功 愛知県がんセンター研究所 がん予防研究分野 主任研究員

研究要旨

喫煙は多くの疾病の原因であり、喫煙状況の正確な把握がハイリスク者の特定に有用である。また、禁煙により種々の疾患リスクを大きく減らすことができる。しかし喫煙形態の多様化に伴い、喫煙状況の把握が困難になっており、保健指導の際には注意が必要である。

A. 研究目的

喫煙は多くの疾病と密接に関連することが知られている。そのため、喫煙状況の正確な把握は様々な疾患のハイリスク者の特定に有用である。また、保健指導の際は喫煙者が禁煙することで種々の疾病リスクを大きく減らす効果が見込まれることから、喫煙状況に応じた保健指導が必要である。第4期特定健診の質問票から現在喫煙・過去喫煙・生涯非喫煙の3分類による評価に改訂され、標準的な健診・保健指導プログラムの改訂および保健指導の詳細な質問項目の改訂も行われた。しかし近年の喫煙をめぐる状況の変化も考慮した喫煙対策が今後も必要である。

B. 研究方法

喫煙について主に保健指導の現場で問題となる点の抽出および対処

方法を検討した。

(倫理面での配慮)

この研究方法は、既報告の結果や公開された情報に基づいて実施されており、倫理面での問題はない。

C. 研究結果

● 喫煙形態の多様化

従来、喫煙といえばほぼ紙巻きタバコ（燃焼式たばこ）のみであり、それ以外の喫煙形態であるパイプや葉巻などは極めて少数であった。しかし現在は加熱式たばこを始めとして多様な喫煙形態があり、混乱をもたらしている。

加熱式たばこは2013年から販売が開始されており、若い世代の喫煙者を中心に使用されている。加熱式たばこはタバコ葉を使用したタバコ製品であるが、紙巻きタバコと異なる形態や健康への害が少ない様に誤認させるプロモーション活動などにより、加熱式たばこは

従来の喫煙とは異なるもの、あるいは喫煙では無いと認識したり、健康被害が無いと誤認する者も存在する。そのため、特定健診においては喫煙の有無の確認で加熱式たばこなどの使用も確認する必要がある。

また近年、水タバコ（シーシャ）を手軽に楽しめるシーシャバーなどがおしゃれな場所として若者に紹介されることが増えている。水タバコは大規模な器具が必要なこと、管理の手間などの理由で店舗外で気軽に喫煙することは難しいが、ニコチン依存などを通して加熱式たばこなどの常習的な喫煙につながる可能性がある。

電子たばこ・ベイパーと呼ばれる製品も広がりつつある。これらは香料やグリセリンを含む液体を電気で加熱して吸入するものだが、加熱式たばこと異なりタバコ葉を使わず、ニコチンも含まないことが特徴である。ニコチンを含まないことから依存性がなく、タバコ葉を含まないことから健康被害も少ないことが期待される。しかし、喫煙者が電子たばこに切り替えることで禁煙につながるかというエビデンスは十分でない。

● 禁煙外来の休止

2006 年から禁煙治療が保険適用になり、禁煙補助薬を使用して禁煙治療を行う禁煙外来が広がってきた。しかし、2020 年の新型コロナウイルス感染症および 2021 年の禁

煙補助薬チャンピックスの出荷停止を機に多くの禁煙外来が休止となり、現在でも再開されていない。このため、禁煙の意思があっても受診できない場合があると思われる。

D. 考察および結論

第4期特定健診で喫煙に関する質問が詳細になった。しかし喫煙形態の多様化などにより、喫煙の実態把握が難しくなっている。保健指導に関わる者は新たな喫煙形態に対する知識と、保健指導の際の詳細な聞き取りが必要である。また、禁煙の意志のあるものに対して禁煙外来を紹介する場合も、休止中でないか確認する必要がある。

E. 研究発表

1. 論文発表

- Oze I, Ito H, Koyanagi YN, Abe SK, Rahman MS, Islam MR, et al. Obesity is associated with biliary tract cancer mortality and incidence: A pooled analysis of 21 cohort studies in the Asia Cohort Consortium. Int J Cancer. 2024;154(7):1174-90.
- Koyanagi YN, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, et al. Genetic architecture of alcohol consumption identified by a

genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. Sci Adv. 2024;10(4):eade2780.

- Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, et al. Association between awareness of limiting food intake and all-cause mortality: A cohort study in Japan. J Epidemiol. in press
- Tamura T, Wakai K, Kato Y, Tamada Y, Kubo Y, Okada R, et al. Dietary Carbohydrate and Fat Intakes and Risk of Mortality in the Japanese Population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. J Nutr. 2023;153(8):2352-68.

2. 学会発表
該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況
該当なし